

学校data

1924年創立／総合学科／生徒数 719人(男子97人・女子622人)／進路状況(2014年度実績)大学72人・短大33人・専門学校83人・就職49人・その他2人
★ユネスコスクール(2012年～)

豊田東高校(愛知・県立)

Report 03

「話す、聞く、まとめる、振り返る」 発表会を通じた協同探究の繰り返し 主体性と自己肯定感の強い生徒を育てる

発表と振り返りの繰り返しで、
生徒の自己肯定感を醸成

2007年から総合学科高校として新たなスタートを切った豊田東高校。同校の2・3学年の「総学」の取り組みは、1学年の「産業社会と人間」の流れをくみ、一貫して発表と自己表現に重点を置いている。

「本校は2学年から11の科目プランに分かれます。生徒一人ひとりが自分の将来像を実現するために今何を学ぶか、1学年の科目選択が重要な意味をもちます。興味・関心だけで安易に選ぶことがないように、自分と社会を知る時間を1学年から十分に設けます(近藤先生)」
「単二ことに発表の機会を多様に設定しているのは、社会を知るフィールドワークや調べ学習で感じたことを、真剣に考えて言語化することにつながるからです(中野先生)」

「発表会で自分が話し、人の話を聞き、まとめて、お互いの発表を評価し合うことを繰り返し、積み上げていくことで、視野が広がり、情報をまとめる力がついていきます(小瀧先生)」
1学年だけでも学習→発表のサイクル

ルが何度もある。クラス発表だけでなく、単元によっては学年での発表会があるほか、集大成として年度末に学校全体での「総合発表会」を実施している。当初は傍観者であった生徒が1学年の終わりに「クラス代表や学年代表に選ばれたい」と意思表示するまでに変化するという。また、受験の際、大学からの面接の評価が非常に高いそう。こうした自己肯定感が強く、表現力を身につけた生徒を育てるカリキュラムの味を見ていこう(図1参照)。

勉強の目的を明確にするため
生徒たちの中だるみがない

1学年の「企業・キャンパス見学」では、就職・進学希望にかかわらず、全員が大学と企業の両方を訪れる。
「事前に下調べをして質問事項をまとめて当日に臨みます。事後に発表会があるので、各訪問先でじっくりインタビューしてきます(小瀧先生)」

「社会を知る新聞作り」では、立候補で編集長を決め、5〜8人の班に分かれて自由なテーマで新聞作りに励む。「地域環境研究」は、地元の公園の有効活用について高校生の発想でまとめ、地域のN

豊田東高校の「総学」の位置づけ

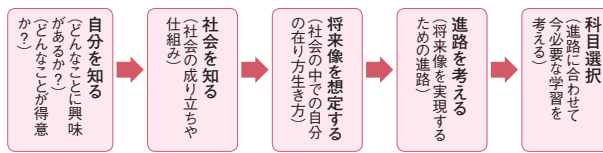
豊田東高校のキャリアガイダンス(学習&進路支援)

「夢の実現」を目指す3つのステップ

- ★自分自身をみつめ、自分がどのような人間であるかを発見する
- ★自分の人生設計を考え、夢(目標)を決める
- ★人間性豊かな思いやりと、社会性・協調性、感受性を育てる教育を実践する

自己をしっかり見つめ、自分の進路について深く考える

- ★「産業社会と人間」の授業を中心に、「自分探し」に取り組む
- ★進路適性を探ったり、上級学校や企業訪問などの体験学習を通して、社会の中の自己の在り方、生き方についての考えを深め、自分の進路の方向性を決めていく
- ★「夢の実現」までの筋道(ライフプラン)を立て、夢を実現するための科目を選択しながら、2年次以降の時間割を作る



産業社会と人間

1年次「さがす」

総合的な学習の時間

2年次「ひろげる」

3年次「はばたく」

自分の夢の実現に向けて必要な力を養うために、さまざまなことに挑戦し、自分の世界を広げる

- ★「総合的な学習の時間」・LTなどの時間を使って、各自のライフプランに従い、必要な力を意識して自分の個性を伸ばしていく
- ★テーマ学習を通して自分の興味を深め、グループワークなどの方法で自分の課題を発見
- ★インターンシップや進路学習を通して、進路研究をいっそう深める

将来の夢を達成するために進むべき卒業後の進路を決定する。進路実現のための具体的方策を選択し、必要な力を身につける

- ★自分の進路実現に向けて興味・関心をもとに各テーマに分かれ、「総合的な学習の時間」などを活用して、課題研究などを行う

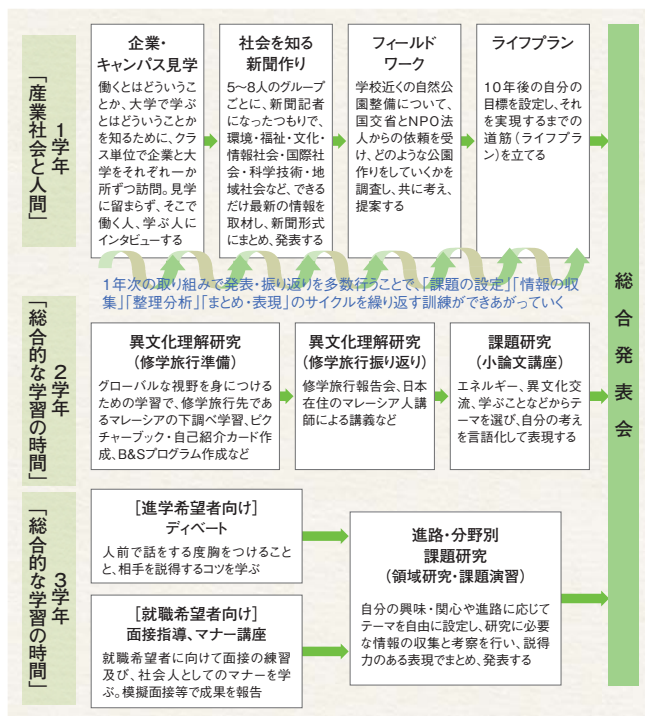


写真後列左から
進路指導主事
中野竜夫先生
教頭
櫛田敏宏先生
教務主任
近藤砂敏先生
前列左から
総合学科推進部
小瀧逸子先生
総合学科推進部主任
山本徳子先生

取材・文/長島佳子

POに提言する。1学年の集大成は「ライフプラン」の作成だ。10年後になりたい自分になるために、2・3学年、その先で何をするか計画を立てる。
「ここでライフプランを立てることが2
学年からの学習意欲の高まりにつながります。また、生徒は初めて個人での発表を経験することで、発表のスキルがさらに上がります(山本先生)」
「何のために勉強するのかを生徒がはっ

図1 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の主な取り組み(2015年度計画)



1年間の成果を報告する総合発表会

毎年2月に、学年代表者による総合発表会を実施。全校生徒、教員だけでなく、保護者や近隣の中学、総合学科高校、外部講師、地域のNPOの人々などが見学する中、1年間の「産業社会と人間」、「総学」、選択プランごとの学びの集大成を発表する。発表会に出場した生徒もそうでない生徒も、実施後のアンケートには「豊田東高の生徒で良かった」という感想があふれている。



3年間で学んだ知識、多数の発表で身につけた表現力をいかに発揮する



修学旅行で学んだ異文化理解研究を発表する2年生の代表

One Point 効果を高める指導のコツ

発表の意味を深める「聞き取りシート」

同校は「産業社会と人間」「総学」とも、「発表会」に重点を置いているが、生徒同士がお互いを評価することで、発表のスキル、内容の深化とともに効果を上げている。单元ごとに、クラス内発表会→学年発表会など発表のステージを用意しており、それぞれで毎回「聞き取りシート」で他の

生徒や班の良かった点を点数と自由記述で記入し、本人にフィードバック。それにより「話す→聞く→まとめる→振り返る」のサイクルが回り、表現力と自己肯定感の上昇につながっている。



ダウンロード可



1年次の活動



「社会を知る新聞作り」は班ごとに自由なテーマで記事を作成し模造紙で発表

企業・キャンパス見学では、見学に留まらず、さまざまな質問をぶつける

2年次の活動



修学旅行先のマレーシアで現地の学校と交流、異文化を学ぶ



修学旅行では事前に日本を紹介するピクチャーブックを英文で作成

きりと自覚することになります。学習の目的が明確なため、外部からは「中だるみのない学校」と評価を受けています」(近藤先生)

2学年での「総学」は、10月の海外修学旅行が軸となる。事前に訪問先のマレーシアについての下調べをするほか、現地で交流する人々に日本や自分を知ってもらうためのピクチャーブックや自己紹介カードを英文で作成。旅行中は提携校や現地の学生や社会人との交流でマレーシアの文化を深く学んで来る。帰国後は、経験したことでの発表会を行い、さらに日本に住むマレーシア人講師を招いて、旅行中に疑問に感じたことなどについて話を聞く場も設定している。

生徒の成長と変化の質・速度が教員の意識に変化をもたらし

3学年では進学/就職の希望コース別に「総学」のカリキュラムが設定されている。進学希望者はディベートで相手と説得するコミュニケーションを学び、就職希望者は履歴書の書き方から面接マナー講座など、社会に出る準備を整える学習を行う。その後、進学・就職希望者とも、進路希望に沿ったテーマで課題研究に取り組み。

年度末の「総合発表会」では、1・2年生が3年生の発表を見て、来年・再来年に自分たちがそこまで成長できるのかと驚き、1年生のライフプランの発表に上級生たちが刺激を受け、自分と異なる選択プランの生徒の発表を見て、総合

学科高校の素晴らしいさを実感するなど、非常に多くの気づきを得ている。外部からの見学者にも、発表の精度の高さに驚かれるそう。

現在の全校生徒、全教員をあげての同校の「総学」の取り組みに至るまでには紆余曲折があったという。

「当初は『総学』の意義を見いだせなかった先生も、生徒たちの発表や感想、成長のスピード・質・量を目の当たりにして、積極的に取り組むように変わっていきました」(近藤先生)

「当校の実践事例がESD(持続可能な開発のための教育)と認められ、2012年に愛知の県立高校で初のユネスコスクールに認定されました」(榎田先生)

日常の取り組みがESDにつながる同校に、学ぶべきことは多そう。